

中濃農林事務所の普及活動状況 令和5年5月25日現在

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■研修拠点 研修状況確認

5月16日、JAめぐみの地域振興作物栽培実証圃場の月例ミーティングが行われた。

今年度は研修生2名が研修を実施しており、研修の進捗状況と今後の計画について検討した。ほ場では、夏秋なすが栽培されているが、適期作業にて順調に生育している。

農業普及課では、引き続き研修拠点研修生の技術習得および就農準備について関係機関と連携して支援していく。（地域支援係）



【なす作付け状況】

■新規就農者 営農状況確認

今年4月に、美濃市で露地野菜等にて就農した新規就農者を定期的に巡回し、営農状況を確認している。

5月16日には、主品目であるトウモロコシの作付け状況を確認し、計画どおりに播種作業が行われ、概ね順調に生育していた。また、5月下旬に植付ける予定のさつまいもほ場の準備や水稻の育苗も行われていた。

農業普及課では、新規就農者の円滑な営農定着に向けて、今後も関係機関と連携しながら支援していく。（地域支援係）



【トウモロコシ作付け状況】

■JAめぐみの就農塾 さといもコース

5月12日、関市内のさといも生産者ほ場で、JAめぐみのが主催する就農塾（さといもコース）が開催された。

受講生9名が出席し、出芽したさといもの芽出し作業、除草作業について研修を行った。さといも生産者やJAめぐみの、農業普及課が講師となり、作業のコツや注意事項について説明し、受講生は実際に芽出し作業を意欲的に行った。

農業普及課では、今後も就農塾を支援し、新規就農を目指す受講生がスムーズに就農できるよう支援していく。（地域支援係）



【芽出し作業】

■JAめぐみの就農塾 夏秋なすコース

5月9日、JAめぐみの実証圃場で、就農塾（夏秋なすコース）が開催された。就農塾は、栽培技術と農業経営の基礎知識を身につけ、夏秋なす生産に取り組む新規就農者の育成を目指している。

今回は6名の受講生とJAめぐみの、可茂・中濃農林事務所が参加し、圃場準備、定植作業について研修を行った。受講生は、講師の説明や作業に熱心に耳を傾け、また、実際に苗の定植や仮支柱への固定作業を行い、作業のコツ等をつかんでいた。

就農塾は11月まで6回の開催が計画されており、農業普及課では、今後も就農塾を支援し、受講生のスムーズな就農を支援していく。（地域支援係）



【定植作業】

■小学生米作り体験学習 講師

5月12日、美濃市立大矢田小学校5年生を対象とした米作りの体験学習が開催され、米の作り方や地域稲作の特徴、米を取り巻く状況などについて農業普及課職員が講義を行った。

同小学校では、毎年「総合的な学習の時間」の取り組みとして、地域の農家等の協力のもと、5年生が田植えや稲刈り体験を行っている。

農業普及課では、未来ある児童に農業を身近に感じてもらい、理解を深めてもらえるよう、関係機関と連携して活動を支援していく。

(地域支援係)



【講義】

安心して身近な「ぎふの食」づくり

■水稻（採種） 苗審査

5月2日、10日、15日、24日に、水稻種子を生産する(農)美濃種子の苗審査をJAめぐみの担当者と連携して実施した。

苗生産者は温度・水管理に気を配って、例年どおりのスケジュールで、良好な苗生産ができてきている様子であった。

農業普及課では、引き続き水稻種子生産を支援し、優良種苗を安定確保していく。

(地域支援係)



【水稻苗】

■小麦 麦作共励会県審査

令和5年産小麦の出来栄を評価する岐阜県麦作共励会が実施され、中濃地域代表として関市内の経営体を県麦作共励会に推薦した。

今年産の小麦は、3月の高温等により平年より出穂が早かったものの、出穂期前後の天候が不安定で、出穂後の低温により開花が遅れたため、赤かび病防除のタイミングが難しかった。今回麦作共励会県審査に推薦した経営体では、そのような状況下でもほ場の状況を的確に把握し、適期作業を行うことで、品質・収量とも高位安定生産を目指した栽培が行われている。

県審査は5月19日に実施され、農業普及課は、推薦した経営体の栽培概要や経営状況等を審査員へ説明した。

(地域支援係)



【県審査】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■キウイフルーツ 受粉作業が始まる

5月中旬を迎え、JAめぐみのほらどキウイフルーツ生産部会では、キウイフルーツの受粉作業が本格的に行われ始めている。

キウイフルーツは雌雄異株であるため、品質の良い果実を生産するためには、雄しべの花粉を雌しべに付ける受粉作業が必要である。受粉には様々な方法があり、雌株の近くに雄株を植えて昆虫や風を利用した自然受粉と、雄株から花粉を採取して人手によって雌しべに花粉を付ける人工授粉に分けられる。

部会では、自然受粉と人工授粉の両方を組み合わせて作業しているが、果実の品質を上げるために人工授粉を奨励している。

手間をかければ品質の良いキウイフルーツが生産できるが、どのような生産を行うかは生産者個々の経営判断や販売戦略とも関係してくるため、農業普及課では、作業の手間と品質の関係を明らかにし、作業の効率化を図り、部会内の意見を調整しながら持続的な産地の形成に向けて支援を継続していく。

(地域支援係)



【人工授粉作業】